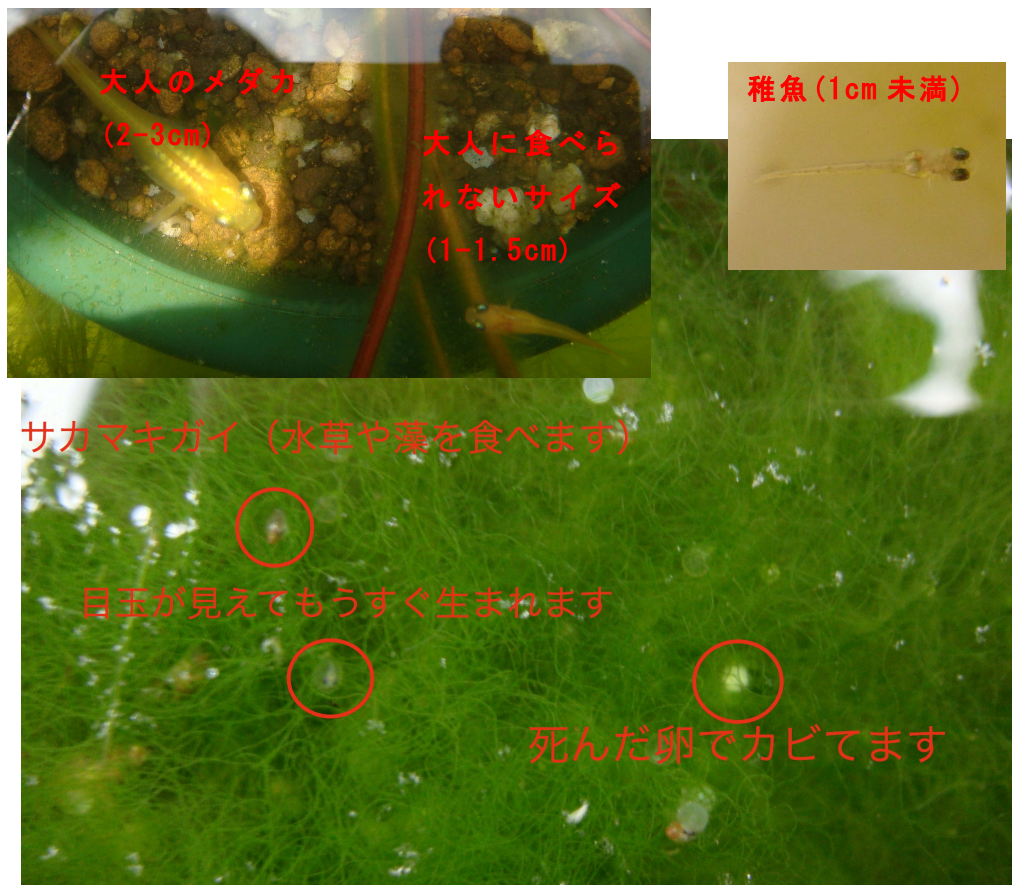


## 1. メダカについて

ヒメダカだと思いますが、数年前にもらった大人3匹から育てたので定かではありません。生まれたばかりの稚魚、1～2ヶ月程度の稚魚を混ぜています。卵もいれると50匹程度はいると思います。



無精卵でカビのついた卵はスポイトなどで取った方がよいです。カビが酸素を消費するためです。元気なメダカは3ヶ月程度でかなり大きくなります。

## 2. 稚魚の育て方

(P) エサは、午後3時ぐらいまでに、夏は1日に1～2度、冬は1度与えます。

※ほんのひとつまみ程度(数分で食べきれぬサイズ)を与えます。

※夕方エサを与えると、消化不良を起こすからです。

※屋外で水草があると、プランクトン等によってエサが無くても育ちますので、それほど厳密にあげなくても大丈夫です。

### 3. 大人に近くなったら（1.5cm 以上程度）

(ア) 通常のエサに切り替えます。

### 4. 大人になったら（2cm 以上程度）

(ア) 夏になって暑くなると、卵をつけているメダカが出てくると思います。

(イ) 水草や藻に卵をつけますが、卵や生まれた稚魚は大人のメダカに食べられてしまいます。育てるなら卵を別に分けて下さい。

※大人のメダカに食べられないサイズは、1.5cm ぐらいです。

### 5. 注意点

(ア) 「サカマキガイ」は、ゼリー状の卵を産み付けて夏に大量発生します。死んだメダカ（死肉）、水草、藻を食べます。もし景観を損ねるぐらい増えたら、少し取った方がいいかもしれません。なお生きているメダカは食べません。

(イ) 「ヤゴ」や「ミズカマキリ」はメダカの天敵ですので、見かけたらとった方がいいと思います。

(ウ) 「ボウフラ」は、それなりに大きくなったメダカのエサになりますので放置しても問題有りません。

(エ) メダカは水温が0度になっても死にません。水がすべて凍ってしまうと死にますが、そうでなければ冬眠状態に入ります。その間エサも不要になります。

(オ) 水温がかなり冷たくなったら、メダカは動かなくなります。その場合、エサは必要ありません。冬眠状態に入るためです。

※もし日中暖かくなって動き出したら、少しエサを与える程度にします。



### 6. さいごに

メダカはかなり環境に強いので、屋外で水草などもあるそれなりに大きな容器で育てているかぎり、ほったらかしにしてもそうそう死にません。死んでもサカマキガイなどが食べてくれるので、死んだことに気づかないケースもあります。少しずつ数を減らしながら、元気なメダカは大きくなっていきます。

夏も終わりの季節なので、もしかしたら大人まで育たないかも知れません。しかし冬は越せると思いますし、死滅しても、毎年数百匹育てているのでその都度お渡しできます。